

<注意事項>

- ・成績評価基準に示したように、学年末試験は 70% の配点です。
- ・解答の順序は問いませんが、大問の解答はまとめて番号を明記して記載して下さい。

問1. 下記の事項を、それぞれ解答用紙 3 行程度で説明しなさい（各 3 点）。

- | | |
|--------------------|--------------|
| (1) 北方外交 | (2) 経済安全保障 |
| (3) クリントンの「3 つのノー」 | (4) ペリー・プロセス |

問2. 権威主義体制の民主化は、支配層に抵抗する民主勢力が勝利して実現するだけではない。「民主化」の定義を確認したうえで、韓国・台湾の移行の挫折と成功の事例を整理して、政治体制の民主化はなぜどのように実現するのかを論じなさい（10 点）。

問3.

- (1) 中華民国の公式領土は現在でも「大陸と台湾」を含む地域であるが、現実の中華民国は「台湾大の国家」として内政・外交が展開されている。一党独裁の時期には大陸に戻ることを主張して北京の共産党政権と争っていた国民党は、現在はむしろ対中関係を重視する政策を打ち出している。なぜこのような変化が現れたのだろうか。台湾の民主化と対外政策の変化という観点から、対中政策をめぐる政党対立を論じなさい。（15 点）。
- (2) 現在の米中関係の基本枠組みは、米中接近から国交正常化の際に設定された。その核心となる中台関係について、中華人民共和国が主張する「原則」とそれに応じた米国の対中政策を整理しなさい。そのうえで、東アジアにおけるパワー・シフトにも言及しながら、両国関係の基本枠組みが現在どのように動揺しているのかを論じなさい（10 点）。

問4. 北朝鮮の核開発疑惑が顕在化した 90 年代初頭から、アメリカ・韓国・日本などは開発を阻止するためにどのような政策を展開してきたのか。一時期、開発の停止などの効果をあげた政策が、結果的に核実験に至るのを阻止できず、初の米朝首脳会談などもあったが、北朝鮮の強硬政策を転換させることができていないのは何故だろうか。それを明らかにするために、90 年代以降の主要国の対北朝鮮政策の展開を整理したうえで、それが失敗した要因を論じなさい（15 点）。

問5. 冷戦期の東アジアの国際秩序がポスト冷戦期に流動化し、現在、危機が高まっていると言われるが、どんな問題がありその原因は何かを論じなさい。それに対してどんな対策があり得るか、論拠を示して自らの見解を論じなさい（10 点）。

<ボーナス問題>

以上で 72 点満点ですが、ボーナス問題を出します。解答に応じて加点されます (10 点)。

授業では、日韓間での歴史問題をめぐる対立が、90 年代になって顕在化した要因を検討したが、第 12 回 (12 月 18 日) では冬休みの課題として、下記論文の PDF を提示した。

・青木清 (2020) 「1965 年しかみない日本、「日帝」にこだわる韓国—「徴用工判決」の法的分析を通して」『アジア研究』66-4、pp.22-38.

論文で提示されていた重要な点をまとめ、それを踏まえたうえで、歴史問題への対応に関して自らの考えを述べなさい。